

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	〒859-5361 長崎県平戸市紐差町450番地		
自己評価作成日	令和3年9月8日	評価結果市町村受理日	令和3年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1地域との関わりを重視したアットホーム的な生活の場を提供している。2管理栄養士が地元の食材を活かしたメニューを計画立案し、介護職員が利用者と一緒に食事作りをして家庭的な雰囲気大切にしている。3地元の児童やボランティアの方々、移動図書館の方がホーム訪れ楽しいコミュニケーションの場を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人の平戸事業部として特別養護老人ホームやショートステイ、デイサービスセンター、近隣には訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、平戸第二グループホームなどを展開している。周辺には郵便局・商店・小学校・中学校・交番・市民病院といった社会資源があり、教会など平戸の文化を象徴する地域資源にも恵まれた場所に立地している。ホームに隣接する特別養護老人ホームや第二グループホーム、デイサービスなど関連事業所との交流のほか災害時等には協力体制を築いている。ホームには広々とした開放的なフロアがあり、入居者がゆっくりと思いおもいに過ごされ落ち着いた空間作りができています。屋外の畑では花や野菜を栽培し、職員と入居者がともに収穫を喜び、旬な食材を食卓に並べ食事を愉しまれています。地元出身の入居者や職員が多く、地域住民との顔馴染みの関係を継続し自宅での生活を延長したゆったりと安心できる環境を整備している。今後も地域との活発な交流や地元根付いた展開が大いに期待できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時毎回、理念と職員心得を出勤者で声だし唱和行い、防災の緊急避難時の役割を確認しチーム全体で実践の共有を行っている。	フロアの壁にホームの理念と職員心得を掲示している。毎朝9時30分に職員が唱和し、その後にミーティングを行っている。理念を反映した年間目標を立て、定期的に振り返りと評価を行い、理念の共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	紐差町第3区の自治会に参加しており、地区の定期的な会合や回覧板の閲覧や地区の清掃には必ず参加したが、行事等はコロナ禍で中止となったため、地域の住民との交流は自粛となった。	ホームは地域の自治会に加入している。近年はコロナ禍により地域とのつきあいを自粛している面もあるが、管理者が地域の会合に出席してホームの現状を伝え情報交換したり、職員による清掃活動への参加や回覧板で地域の活動等を把握するなど地域との交流を継続している。コロナ禍収束後は、読み聞かせやリズム体操、紙芝居等、移動図書館によるボランティア依頼等を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学希望時はできる範囲で行っているが、以前より縮小し、パンフレットや口頭にて説明を行っている。面会時や電話での家族の相談や認知症カフェにも参加行い、認知症の理解や支援に協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用状況や苦情 事故 ヒヤリハットについて報告し、意見、質問などを伺っている。そうした意見をもとにサービス向上に努めている。特別警報などのコロナ禍では、書面会議や別棟の会議室にて感染防止対策行い、会議を行うこともあった。	運営推進会議には4名の第三者委員、市役所職員が構成メンバーとなっている。コロナ禍で書面会議となることもあるが、ホームの現状報告、事故・ヒヤリハット報告、メンバーと管理者との意見交換を行い、コロナ感染症予防に関する話題や、市職員へ予防接種進捗状況の確認などのほか家族と面会ができない入居者や家族の思いを汲み取りながら活発な意見交換の場として運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に必ず市の福祉部より出席頂き、活動、取組みを報告し、行政機関の要望や判断等を伺っている。また、平戸市より介護保険班より、実地指導を受け、改善策を受けたり、適正化事業の為にケアプラン点検もグループホームのケアマネージャーが面談を受け、ケアマネの資質向上の指導を受けている。	ホームの運営推進会議に市職員が参加し、制度上の不明な点や、指導・助言を適宜受けている。最近では実地指導において運営規定等書類上の改善の指導を受け、ケアプラン作成上では作成者の資質向上ができるよう指導を受けるなど、市職員と協力関係を築き改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置しているが、コロナ禍の為、毎月委員会を行えない時もあったが、各部署で勉強会を行って、身体拘束は行わないとの決定事項のもとに職員も周知しケアの実践に取り組んでいる。	法人内で身体拘束・虐待防止委員会を設置している。身体拘束についてのマニュアル、指針を整備している。夜間帯にセンサーを使用する場合がありますその設置について家族より同意を得て行っている。現在、コロナ禍で内外研修を受ける機会が減っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、コロナ禍では月1回の委員会も行えない時もあったが、グループホーム独自の勉強会を行って、意識向上を目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社協などが開催する権利擁護に関する研修会に参加され、積極的に参加しそれを持ち帰り職員間で共用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて説明をし質問を受け理解や納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会制限や行事等の中止になり、状態報告時や近況を電話にてお知らせするときに、家族から意見を聞き、要望を取り入れ、家族との連携を密にしていますが、本人との会話などには電話にて会話ができるように配慮しています。	コロナ禍により家族との面会ができない中、電話で入居者の体調や近況報告を行う共に、「平戸荘だより」を発行し、ホームでの入居者の様子が分かる写真や給食だより、新入職者の紹介、消防訓練実施等について分かりやすく掲載している。家族からの電話を聞いた職員が申し送りノートに記録に残し、申し送り時に伝達し、ケース記録にも転記して職員間で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や各種委員会、拡大会議を行い、意見交換の機会を設け、グループホームからの要望等について対応している。	月1回職員会議を開き、職員の意見を聴取している。オムツやパッドの量など家族の金銭的負担を軽減するための意見や、入居者が季節の理解ができるよう季節に応じた花を植える等の活発な意見や提案が挙げられホームの運営に活かされている。有給休暇の取得について最低限年5日は確実に消化できるよう体制を整えている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会福祉法人白寿会就業規則を基に各職種、職員の実績、勤務状況などを把握して昇給人員配置等については配慮している。 (キャリアパスシート)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、オンライン研修にて、新任者、中堅者コロナ感染防止対策の研修会参加を受ける機会を確保している。また、グループホーム内で定期的な勉強会を通し介護について、認知症について、各自が学び意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、同業者が主催する行事は中止になっており、活動ができなかった。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談時に本人とのコミュニケーションを密に取り、傾聴の姿勢で接し、要望や困っていることなど確認し、積極的な声掛けで安心を確保できるように努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が安心して相談できるような雰囲気や環境づくりに努め、常に家族様からの要望に耳を傾けられるように対応を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握、ご家族やケアマネージャーと密に情報交換を行い、又職員で情報交換し合い必要なサービスを見極めることが出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常に一部の家事の手伝いや、活動などでコミュニケーションを取りながら、作品作りを職員と一緒にいき、楽しく過ごして頂けるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況も考慮し、日頃の状態や病院受診時の内容を報告しながら、介護協力出来る様な事柄等伝えたり、その場合に応じて家族との絆を大切に出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、家族との面会、外出ができなくなりましたが、家族の方に今の様子、体調など電話対応したり、面会も窓越しや距離をおきマスクをして十分に注意した感染防止対策にて対応しました。	入居時に馴染みの人や場所について入居者や家族から聴取している。ふるさと訪問を企画し、各入居者の自宅など馴染みの場へ出向いたり、ドライブを兼ねて外出し気分転換を図る等、今できる支援を工夫しながら馴染みの人や場との関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握し、個人の性格や認知症の状態、身体機能に合わせ利用者同士が関わりをもてるように座席を配慮し、職員も利用者同志の言動に傾聴しより良い居場所を作りを行った。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去されて数年が経過しても町で会ったら声を掛け近況を話したり、関係性を大切にしている。必要に応じては相談、支援に努めている。また、死亡退去された方の葬儀には必ず参列し、初盆には管理者がご挨拶に訪問している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホーム会議で問題点を共有し、アセスメントをして、ニーズを見出している。本人の意思確認が困難な場合には家族に尋ねたり気持ちを汲み取ってニーズを見出している。	ケアプラン見直し時に家族へ意向や要望を聴取し、入居者の日頃の発言や行動、表情を観察し、その方の意向や思いを把握するよう努めている。職員がその方の一連の記録に目を通すことで入居者本人の情報を把握・共有し、日々の実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染の暮らしを把握しこれまでのサービスの経過を見直しながらアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックや身体状況、食事摂取状況、排泄状況のチェックを行い、現状の把握に努めている。又、利用者様の出来る事を活かせるように、野菜の皮むきや縫い物、洗濯干し、たたみ毎日使う新聞折り等を依頼して作業としても取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に関して担当の利用者様に注目して意見を述べてより良いホームでの暮らしができるように計画した。	職員は担当する入居者のモニタリングを行い、個別計画に挙げたサービス支援内容の提供について月1回の全体会議で実践できているかを確認し職員間で意見交換を行っている。ケアプランの見直し時には入居者、家族への意向や要望を聞き、プラン作成担当者がケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様に体調変化などある場合は個別記録に記入し職員で共有しながら実践や介護見直しを支援した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化により眼科、歯科など定期受診以外の受診も行っている。本人の希望を聞き、ふるさと訪問ドライブも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとにドライブにて、花見や海へのドライブ、自宅近くへのふるさと訪問行い、楽しみを持つことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を配慮し、かかりつけ医を決定している。異常な特変があればすぐに報告し、対応している。病院、家族、ホームとの連携に努めている。受診に診療経過表を持参し記録や服薬確認が出来る様に努めている。	入居時にホーム協力医療機関に関する説明を行い、入居者、家族が納得した上で以前のかかりつけ医を変更したい旨の要望があれば、紹介状を得てホームの協力医へ変更している。受診時は職員が同行支援し、場合によっては家族に同行を依頼している。受診時の医師のコメントを記録に残し、家族へ報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設として特養に看護師が在中している事により、体調不良時や急変時の指示を仰ぎ利用者が適切に受診できる様支援している。又、いつでも相談できる関係を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーの提供と面会にて病院の多職種と情報交換、相談に努め、病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より余命宣告を受けた時点で話し合いをして同意書を交わし、状態の変化に応じて食事形態を話し合ったり補助食品を取り入れるなど、管理栄養士との連携も図りながらチームで取り組んでいる。又、状態の安定している時期にご兄弟や姉妹との面会の場を設けたり出身地への訪問をしたりと関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居時に終末期の意向について入居者本人や家族から聴取している。看取り期には今後の対応について家族の希望や思いをあらためて聴取し、本人の状態に応じて医師の指示を受けたり、経口栄養については法人内の管理栄養士と連携を図りながらチームケアに取り組んでいる。ホームで対応が困難になった場合は、医療機関又は系列の特別養護老人ホームへ移設し、入居者や家族にとって最善で穏やかな最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署の救命救急のAEDの講習を受け、緊急時に対応できるようにしている。また、職員は吸引の勉強会や夜間急変時の勉強会を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間の呼集訓練や夜間想定避難訓練を開催している。火災を未然に防ぐための対策としては、消化器の使用法や補助散水栓の使用法について勉強会を行ったり、防災カーテンを使用したり、コンセント部などの細目な清掃に努めている。	今年5月、自主訓練を昼間想定で、通報・避難誘導・非常食試食会を行った。8月には夜間想定で消火・避難訓練を夜間帯に行った。5月の訓練では実際に入居者が非常食を試食した。8月の訓練では有事における職員への緊急連絡後、自宅からホームまでの到着時間を計測した。災害対策の検討・見直しに繋がる有効な自主訓練を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を用いて、親しみやすく安心できるような対応を行っている。	職員は入居者を尊重する姿勢で関わり、方言を用いながら親しみがわくような会話で、入居者にとって安心感が持てるような対応に努めている。入居者の情報を記録した紙のメモ等は個人情報であるため、確実に廃棄できるようシュレッダーを用いて処分している。	コロナ禍で職員の研修参加が難しい現状を踏まえ、まずは年間研修計画を立案し、例えば言葉使いにおける声のトーンや親しみと馴れ合いの関係性など接遇研修や身体拘束・虐待研修を必須の研修として組み込むなど確実に受講できるよう今後の取り組みに期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢ができる事業掛けを行い、希望を話せる様な雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、1人1人の性格や状態に応じて、ゆっくりとしたペースで生活が出来る様に、無理をしないように支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など洗面所の鏡の前で自分で髪を整えたり、美容師資格を持った職員により、ボランティアで散髪も定期的に行っている。1人1人の個性にあった衣類を毎日コーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭き、お茶入れ、配・下膳茶碗洗い等を利用者様にも依頼している。誕生日会ではメニューを本人から聞き、食べたいものを取り入れている。野菜の皮むきや牛蒡そぎなど手伝ってもらったり、梅干しづくり、らっきょ漬けなど、簡単な作業を行っている。	入居者は野菜の下拵えや配下膳等、食事の一連の流れに参加や関わりを持つことで自身の役割を意識し、達成感を感じることができている。法人内の管理栄養士が高齢者の特性に応じた献立表を作成し、ホームの調理担当者が毎日の食事を作っている。敬老の日や誕生日などの行事の際は入居者が好む新鮮な刺身等を提供するなど地元の新鮮な食材を使って行事食を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人に合った形態、量、嗜好を取り入れながら管理栄養士のたてた献立により、バランスのとれた食事を提供している。又、栄養補助飲料やゼリーや嚥下低下の方にはトロミを取り入れてスムーズな嚥下ができるように、1人1人の状態に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	緑茶にて毎食後の口腔ケアを行っている自力では困難な方には介助行ない、義歯は外して洗口腔内の清潔に努めている。又、義歯洗浄を用い清潔保持に努めている。舌苔のある方には、舌ブラシ使用し清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入所者が日中はトイレにて排泄されている。訴えない方については本人の排尿間隔を推察しながらトイレ誘導を行い、尿汚染が無いように取り組んでいる。また、夜間でもポータブルトイレで排泄可能な方は介助行ない、自立支援にむけた支援を行っている。	入居者個々の排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。尿意、便意の訴えがない入居者についても失禁がないよう日頃から観察し、排泄の傾向を把握した適切な誘導によりトイレで排泄できるよう支援している。夜間帯は必要に応じポータブルトイレを設置し排泄の自立に向け支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や上下肢運動等を行い、腸の蠕動運動を促進に排便を促している。起床時にお茶、10時には牛乳、紫蘇ジュースを提供している。排便困難時には水分、果物、さつま芋を摂取して頂き、便秘予防、改善に努めている。なるべく下剤を用いず排便コントロール出来る様に目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	薬湯やゆず湯など季節感を味わって頂き家庭的な雰囲気を楽しんでもらえるように支援している。体調、体力など本人の状態により回数や時間帯は職員が決めているが、本人の身体状況や希望にて合わせて、シャワー浴、足浴 清拭を行っている。	週2回、入浴できるよう支援している。浴槽に入浴剤や季節を味わえるよう柚子を入れたり、心地よく入浴できるよう工夫している。入居者によっては職員2人介助で浴槽の中に入ってもらうなど本人の希望に応じた入浴支援を行っている。入居者の心身の状況に応じて足浴や清拭に変更するなど臨機応変に対応し清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、傾眠の場合等は夕食後もホールで過ごして頂き遅めに床につかれたり本人のその時の状況や希望に応じて支援している。夜間、不眠時は話を聞いたり温かいお茶と一緒に飲み安心して休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診などで内服薬が処方になった場合は口頭で説明し申し送り帳を活用するなどし、各自が副作用の出現に注意し、症状の変化にも気づく事ができるように努めている。又、服薬介助時には2人での氏名確認により誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	故郷訪問をして懐かしい場所へ出かけている。また、季節に応じて花見や海遊び、そうめん流しなど気分転換が図れる様支援している。また、誕生月の方には嗜好品を尋ねメニューを取り入れ楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周囲の散歩で季節の実を取ったり、利用者みんなで季節の花見やドライブに外出し楽しんでいる。個人にあわせふるさと訪問も行っている。又、家族との外出の機会を設け、自宅や外食など楽しく過ごして頂けるように配慮している。	コロナ禍により外出を自粛しているが、ホーム周辺への散歩、季節の花見、ふるさと訪問を行うなどできる範囲で外出の機会を設けている。外出支援により入居者の気分転換やストレス解消を図り、同時に職員も入居者の明るい表情を見ることであらためてやりがいを感じ、更なる支援に繋げることができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品など買い物等は希望有れば随時検討している。高価な物の場合はご家族にも相談の上購入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ利用者様の状態を電話で報告したり、時間があれば本人と電話で話したりと配慮している。携帯電話をお持ちの方には、自由に連絡できるように出来る限り配慮している。年賀状は毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、食事の際には音楽を流して和みの空間を心がけている。また、居室には本人の写真やバースデイカードを飾るなど自分の空間として楽しんでいる。	共有空間のフロアは広々とした空間で、洗濯物たみ、じゃがいもの皮むき、脳トレなど、入居者一人ひとりが思いおもいに過ごしている。要所には空気清浄機や消毒液を設置し、壁には職員と共に作成した季節の壁飾りや季節を感じることで花を飾り、居心地よく明るい雰囲気清潔感のある共有空間ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	既に入居された方は自分の場所を持っておられ、新しく入居された方はとまどいがあるため、職員が配慮して、トイレなど目印や声掛けなど対応し過ごしやすいように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や物を持ちこまれた方もいる。花を飾ったり、プレゼントを飾っておられる。各部屋に家族写真も飾り、安心して過ごされている。	居室への持ち込み品についてチェックリストを作成し、契約時に説明している。入居者は布団や食器、家具等、以前から使用していた馴染みの物を居室に配置したり、食事の際に使用している。カトリックの信者である入居者の居室には日常的に礼拝ができるようマリア像と十字架を置くなど、その方の宗教心に配慮し以前から大切にしていたことを継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のクローゼットに衣類の表示はしているが、収納できる方は少ない。その為職員ともに収納を行っている。		